

1. 単元名 わたしたちの生活と森林

2. 単元の目標

- ・森林はその育成や保護に従事している人々の様々な工夫や努力により、国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解する。(知識・技能)
- ・森林資源の分布や働き，国生活との関わりなどに着目し，国土の環境を捉え，森林資源が果たす役割を考え，表現するとともに，環境保全のために自分たちができることを考えている。(思考・判断・表現)
- ・林業や森林保全に興味を持ち，森林資源を積極的に利用する理由について意欲的に調べるとともに，大切に守っていこうとする態度をもつ。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は，学習指導要領では，第5学年 内容(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活」との関連について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導することとしている。ア知識及び技能(イ)森林は，その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解すること。(エ)地図帳や各種の資料で調べ，まとめること。イ思考力・判断力・表現力(イ)森林資源の分布や働きなどに着目して，国土の環境を捉え，森林資源が果たす役割を考え，表現すること。

山形県は，県土の73%を森林が占めてある。森林は，木材の供給や景観の形成や水源の涵養など多面的機能を持っており，我々の暮らしに恩恵を与えてくれている。しかし，戦後に植樹された人工林は利用期を過ぎていても放置されている物が多く，荒れてきてしまっている山が多い。「植える，育てる，収穫する，使う」といった緑の循環システムを取り戻し，森林を保全していくことが喫緊の課題となっている。そこで，山形県では，県産材の利用を推し進めるために「やまがた森林ノミクス運動」に取り組み，森林保全ないし林業の振興に努めている。

(2) 児童観

これまでの社会科の中で，学習問題に対して仮説を立て，検討するといった学習を繰り返し経験してきた。仮説を検討する局面では，資料だけでなく，実際に見学したり，人に聞いたりしながら情報を集めることができている。しかし，仮説を検討するためにどのような情報が必要かといった見通しまで持つことがなかなかできていない。話し合う場面では，自分の考えと理由を事実や経験を根拠にして主張することができるようになってきた。

本学級では，朝のスピーチ活動に取り組んでいる。その中で，地球温暖化や廃プラスチック問題などの環境問題について話す子ども達が多くいる。以前，熊が人里に降りてくる被害について話した子

がいた。それを聞いた子たちは、「山の木がいっぱい切り倒されているから、山に餌がないのではないか」といった予想を立てていた。ここから、子ども達が国土の森林の多くが伐採されているといった見方を持っていることが分かる。

(3) 指導観

第一次では、山形県の熊の目撃件数のグラフを提示する。昔と比べると、熊の目撃が急増していることを読み取る。その理由について考える中で「人間たちが木を伐採しているからではないか」「山の森林がなくなって熊の餌がないのではないか。」といった考えが出てくると予想される。そこで、「やまがた森林ノミクス運動」の県知事からの宣言文を提示する。県の木材を積極的に使おうとする県の取り組みと子ども達が抱えている木を切ることに対する環境意識とのズレから、この運動に問いを持つと考えられる。そこで、「なぜ、木を積極的に使うことを進めているのだろう？」といった学習問題を設定する。

第二次では、県産の木材を切ることがどうしてよいのかについて、「日本の森林の割合の変化が分かるグラフ」や「やまがた森林ノミクス運動」で出している資料から調査する。さらに、森林の多面的機能が説明されている資料を子ども達に提示することで、森林の役割について捉え、木の伐採と森林の保全との関連性について気づけるようにしていく。

第三次には、学習問題の解決のために、「どうして山の木を切らないのだろう？」という学習課題について考える。木の伐採が森林保全に繋がることが分かった児童は、「それなら、どうして木を切らないの？」と発展した問いを持つと考えられるからである。ここで、「木材自給率」や「外国産と国産の値段」「林業の従事者数」といった資料から、林業の抱える問題を捉える。さらに、林業従事者の方から、子ども達が学習課題について考えたことを評価していただく。合わせて、森林保全への取り組みや苦労など、森林に対する思いについて話をしていただく。そこで、森林の環境保全の難しさを痛感することによって、消費者として何ができるかといった思いを持たせていきたい。また、里山である大森山に実際に行き、手入れされていない場所を見学する活動を設ける。大森山は昨年度に総合的な学習の時間で子ども達はその魅力をPRしてきた山である。子ども達は大森山にも手入れされていない場所があることに気づいていない。この事実を目の当たりにすることで、森林の問題の深刻さをさらに実感すると考える。

第四次では、県産材の木づかいをするために自分たちにできることはないか考える活動を設定する。県産材を利用した木づかい品や「やまがた森林ノミクス運動」の事例について知る中で、自分たちにもできることを考えていく。さらに、学活で行う自然体験学習と関連させ、県産材を使った道具を作る活動を仕組み、県産材を使って利用させることで、自分たちも森林の環境保全に貢献しているといった実感を持たせ、環境保全に関わっていこうとする態度を持たせていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・・・木材は、育て、消費し、再び将来のために植樹するという循環のシステムを回していくことによって、森林の環境保全が保たれること。さらに、こうした循環のシステムを機能していくことで、未来の環境保全につながる。

連携性・・・森林の環境保全是、生産者だけでなく、消費者の行動と密接に関係しており、相互の連携が大切であること。

・ **本学習で育てたいESDの資質・能力**

クリティカル・シンキング

森林の環境保全の意味を知ることを通して、自分たちにできることを考える。

長期的思考

森林からの恩恵を持続可能なものにしていくために、未来のことを考えて、今自分たちにできることを考える。

・ **本学習で変容を促すESDの価値観**

自然環境、生態系の保全を重視する

人間は自然から多くの恩恵を受けていることや今の山の森林が荒れてきていることから、森林環境を守っていききたい。

・ **達成が期待されるSDGs**

- 1 2 持続可能な生産・消費形態の促進
- 1 5 持続可能な森林の経営と解決行動の促進

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 森林の分布や森林の多面的機能、林業の仕組みなどついて、資料で調べたり専門家に聞いたりして情報を集め、森林資源および林業が果たす役割について理解している。 ② 林業に関わる人々の様々な工夫や努力によって、森林の保全につながっていることを理解している。	① 森林資源を積極的に使うことと森林保全との関連について考え、適切に表現している。 ② 森林保全のために、自分たちにできる木づかいを考え、適切に表現している。	① 森林資源を使うことの意味について、予想や学習計画を立て、学習問題を追究し解決しようとしている。 ② 暮らしに恩恵をもたらす森林を大切に保全しようとする態度を養う。

5. 単元の指導計画（全9時間 社会科6時間+国語1時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	○熊の目撃件数のグラフを読み取る。 ・年々、熊の目撃が増加している。 ・昔は全然目撃されてなかったんだな ・人が山の木をいっぱい伐っているから食べ物がないんじゃないかな？ ○「やまがた森林ノミクス運動」の宣言文を読み取る。 ・木をたくさん使ってと書いてあるよ。 ・もっと木を切ろうとしているの！ありえない！	・以前の熊のスピーチを想起させる。 ・「やまがた森林ノミクス運動」の宣言文を読み取り、感じたことを交流する。	△ウ①

	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>なぜ、木を積極的に使うことを進めているのだろうか？</p> </div>		
	<p><u>学習問題に対する考え</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・木を使えば、それだけ儲かるから。 ・いっぱい使うと、生活が便利になるからかな。 		
2	<p>本時の課題「どうしてやまがた森林ノミクス運動に取り組んでいるの？」 (2時間)</p> <p>○資料をもとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の森林は逆にたくさんある。 ・使われていない木が多くある。 <p>○森林の役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山が荒れてしまうといろいろな災害とかが起こってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の森林の割合の変化が分かるグラフ」や「やまがた森林ノミクス運動」で出している資料から調査する。 ・木を伐らなかつた時の荒れた山の状態の写真を提示する。 ・森林の多面的機能が説明されている資料から森林の役割を捉える。 	△ア① イ①
3	<p>本時の課題「どうして山の木を切らないのだろうか？」(3時間)</p> <p>○資料をもとに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・70%も外国産だよ。安い外国産をみんなが使ってしまうんだな。 ・林業で働く人も少なくなっている。木を伐る人も少ないんだ。 <p>○林業従事者(東根市森林組合)の清野さんから森林の環境保全に向けての話聞く。</p> <p><u>お話の内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の循環ができなくなることで起こる災害や今の山の現状 ・森林の環境保全に向けての努力や苦労について ・自分たちにも木づかいについてできることを考えてほしいこと <p>○学習問題に対する答えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使われていない木が多くなっていて、山が荒れてしまうから。 ・緑の循環システムを回すため。 ・国産の木の消費が少ないから。 <p>○地域の山の現状を調べに行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな山だと思っていたけど、裏側は手入れされていないんだ。 ・こんなに近くの山まで…。森林の問題は結構深刻だな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「木材自給率」や「外国産と国産の値段」「林業の従事者数」が分かる資料を提示する。 ・林業従事者の方に児童が考えたことを報告し、それを評価していただくようにする。それを受けて、森林の環境保全への取り組みについて話していただく。 ・最初に考えた予想と比べて、どのように変わったか、なぜ変わったのかを考えさせ、自分の学習の深まりを捉えさせる。 ・昨年、総合的な学習の時間で学習した里山である大森山の登山ルート以外の手入れされていない場所を見にいき、森林問題の深刻さについて実感させる。 	△ア② イ①
4	<p>本時の課題「森林を守っていくために自分たちにもできることを考えよう」 (3時間)</p> <p>○森林保全のために自分たちにもできることを考え、話し合う。</p> <p>○県産材を使った箸づくりに取り組む。</p> <p>○森林の環境保全について考えたことを意見文としてまとめ、お家の人に見てもらう。(国語科)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・林業従事者(東根市森林組合)の清野さんに協力してもらいながら箸づくりに取り組む。その後、作った箸は給食の時に使い、環境保全に貢献しているという実感をもたせる。 	△イ② ウ②